

沿革

- 1996年 幼児のための「こどもの園」開園（伊達市南稀府町）
- 1999年 シュタイナースクールいずみの学校全日制開校（伊達市西関内町）
- 2001年 特定非営利活動（NPO）法人として認可
- 2002年 伊達市松ヶ枝町に移転、高等部開設
- 2003年 法人名称を「NPO法人シュタイナースクールいずみの学校」とする
- 2006年 構造改革特別区域計画「豊浦『自然と芸術』教育特区」認定
- 2008年 「学校法人北海道シュタイナー学園」設立 豊浦町に移転  
「北海道シュタイナー学園いずみの学校 初等部・中等部」を開校
- 2009年 教育課程特例校に認定
- 2018年 初中等部学校法人化 10周年
- 2019年 いずみの学校創立 20周年（シュタイナー教育 100周年）



いずみの学校



こどもの園

児童・生徒数：定員 204 名（初・中等部 1 学年 14 名 / こどもの園 20 名 / 高等学園 1 学年 18 名 / 男女共学）  
 学生寮：「いずみ寮」高等学園の学生寮として 2010 年に開寮（定員 9 名）



変化の時代に 世界を変える

# 自由への教育

●JRで

JR 室蘭本線 豊浦駅より徒歩約 15 分

- ・札幌→洞爺（特急）1 時間 50 分
- ・新千歳空港→洞爺（一部特急利用）1 時間 30 分
- 洞爺→豊浦（室蘭本線）6 分

●車で

一般国道

- 札幌→<国道 230 号、中山峠経由>→豊浦 約 115km
- 苫小牧→<国道 36 号、37 号経由>→豊浦 約 102km
- 室蘭→<国道 37 号経由>→豊浦 45km

通学にあたって

- ・JR 豊浦駅から校舎まで徒歩約 15 分
- ・列車での通学は概ね 3 年生以上
- ・豊浦町内は、町営のスクールバスが利用できる地域もあります

世界ジオパーク指定の  
 自然と文化遺産に恵まれた町  
 豊浦町は、洞爺湖と活火山の有珠山・昭和新山の側にあり、内浦湾に面した人口四千人の農林水産業が盛んな町です。海、山、川、湖の自然環境に恵まれた一帯は「世界ジオパーク」に認定されています。



◀いずみの学校ホームページ  
[www.hokkaido-steiner.org](http://www.hokkaido-steiner.org)



◀学校見学  
 学校見学日 年 6 回開催



◀教育実践紹介本  
 「こんな学校あったんだ!」  
 北の大地でシュタイナー教育



学校法人北海道シュタイナー学園  
 〒049-5411 北海道虻田郡豊浦町字東雲町83-2 TEL/FAX 0142-83-2630  
 NPO法人シュタイナースクールいずみの学校  
 〒049-5411 北海道虻田郡豊浦町字東雲町83-3 TEL/FAX 0142-83-3878

北の大地で幼小中高一貫のシュタイナー教育

学校法人北海道シュタイナー学園  
 北海道シュタイナー学園いずみの学校 初等部・中等部

NPO法人シュタイナースクールいずみの学校  
 こどもの園・北海道シュタイナー高等学園いずみの学校



# 人生100年時代に子どもに与えたい資質とは？

技術革新が加速し、超情報化、グローバル化、少子高齢化と、社会が大きく変化しています。  
テクノロジーの進化、AIの登場で、自動化され、なくなる職業が羅列され、「人間にしかできないことは何か」が問われる時代になりました。  
誰にも予測できない、100歳寿命、これからの時代を生きる今の子どもに本当に必要な資質とは何でしょうか？

自己肯定感  
他者を受け入れる力  
創造性  
強い意志  
健康な心と身体  
変化を楽しむ力  
今に生きる力  
視野を広げる柔軟さ  
グローバルな視座  
誰とでもつながる力  
学び続け、成長し続ける力  
世界への深い信頼  
真・善・美へと向かう心

ここには  
世界を変える  
学びがある

## 変化の時代にシュタイナー教育。7つの理由

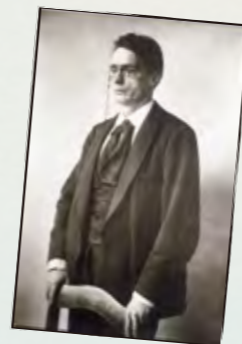
- 1 人間の可能性をひらきます  
人間とは何か？が問われるAI時代に、身体、心、魂に働きかける、ホリスティックな全人教育。  
真・善・美に則したカリキュラムで、倫理的感覚の身についた、真に自由な人間へ導きます。
- 2 経験から積み上げる確かな自信  
体験し感動し、そして自ら考え始める。日々この繰り返し。  
バーチャルではない経験を重ね、全ての感覚を開き、生きる力の基礎とします。
- 3 自己肯定感 他者を受け入れる力  
比較しない、評価しない。世界と人間への共感を育む授業。  
それぞれの個性が丸ごと受け入れられる安心感の中で育む、自己肯定感と他者を受け入れる力。  
自分軸がしっかりありながら多様な考えを受け入れ、しなやかに社会に関わります。
- 4 学ぶ喜び 生涯続く学習意欲  
あふれる好奇心、枯れないモチベーション。自ら学び続け、自己成長、自己変容させ続ける力は、  
どんな状況でも楽しみながら全く新しい分野の仕事、趣味、活動に取り組める、  
人生100年時代を豊かに生きる底力です。

新しい時代を切り開く

これら全ての資質を育むのがシュタイナー教育です。

## 世界で100年 シュタイナー教育とは？

哲学博士・思想家ルドルフ・シュタイナー（1861～1925）によってドイツで生まれたシュタイナー教育は、2019年に100周年を迎えました。物質主義が台頭するヨーロッパで、経済社会のニーズに適應させるためではなく、人間の尊厳を尊重し、真に自由な発想で未来の社会を創りだせる人を育てよう始めました。深い人間観に基づく、心身の発達段階に応じたカリキュラムを用い、子どもが意志、感情、思考においてバランスのとれた成長ができるよう働きかけます。2019年現在、世界約70カ国に2000の幼稚園と1200校の学校があり、その芸術性あふれるホリスティックな教育は、近年でもアジアを中心に広まり続けています。国際的なネットワークがあり、学校間の留学や交流、教師の研修や交流も盛んです。日本では1987年に始まり、日本シュタイナー幼児教育協会と日本シュタイナー学校協会が存在します。現在、10校程の全日制学校が私立学校やNPO法人、ユネスコスクールなど様々な形態で教育実践をしています。いずみの学校（小、中）は日本で学校法人として認可されている2校のうちの1校で、シュタイナー（ヴァルドルフ）学校ワールドリスト登録校です。



## 5 可能性の塊！マルチプレーヤー

自ら定めたテーマを探求、プレゼンテーションでき、チームで課題へも取り組める。  
英語を話し、料理に演劇、弦楽器演奏、絵や小説を書き、ダンスやスキーも特別感なくやってのける。  
幅広い経験を元に豊かな発想と表現力で、どんな方面へも展開して行ける可能性をもって卒業します。

## 6 グローバルな地球市民感覚

「世界はひとつ」から始まる教育で、深いところで他者や世界とのつながりを感じ育ちます。学校内は多様な人で溢れ、様々な文化言語を持つ人と一緒に育ち、海外への修学旅行や交換留学など国際交流も盛んで、コスモポリタン感覚が育ちます。

## 7 既に100年の実践 2020年教育改革で目指すもの

2020年の教育改革による学習指導要領の改訂で、育成すべき資質、能力の3つの柱に「何を理解しているか何ができるか（知識・技能）」「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力）」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性）」があげられました。その育成のために、主体的、対話的に学ぶ、アクティブラーニングも取り入れ始めたところです。

これらはまさに、シュタイナー教育の実践そのもの。私たちは既に100年の実績があります。



# 北海道で 20 年 幼小中高 15 年一貫教育 「いずみの学校」

「いずみの学校」は北海道で  
幼小中高 15 年の一貫教育を行うシュタイナー学校です。  
初中等部は学校法人として、  
こどもの園 / 高等学園は NPO 法人として運営、  
2019 年には創立 20 周年を迎えました。

本校は、教育基本法および学校教育法に基づくとともに、「一人ひとりの子どもの内に全人としての尊厳を尊重する」というルドルフ・シュタイナーの教育理念を基盤に、子どもの心身の発達に即した芸術性あふれる普通教育を行っています。  
「芸術としての教育」を創造し、思考・感情・意志の調和のある子どもの成長を促します。森羅万象に関心をもち、人に心を開き、自立して、世界へ動きかけ行動する人間、また生涯学ぶ意欲を持ち、変容し成長し続ける人間へ育てることを目指しています。  
ヨーロッパで生まれたシュタイナー教育ですが、その精神は世界共通のもので、本校では、日本文化の中にある世界に必要とされるものを受け継いでいくことにも取り組んでいます。

## 《 2 法人による幼小中高の一貫教育 》

学校法人  
北海道シュタイナー学園いずみの学校初等部 1 年生から 6 年生  
北海道シュタイナー学園いずみの学校中等部 7 年生 (中学 1 年生) ~ 9 年生 (中学 3 年生)

NPO 法人  
こどもの園 (年少 ~ 年長) [ 認可外保育施設 ]  
北海道シュタイナー高等学園いずみの学校 10 年生 (高校 1 年生) ~ 12 年生 (高校 3 年生)



かけがえのない  
一人ひとりの  
可能性を开花させ  
喜びをもって世界に向き合い  
自らの個性を活かし  
生きられる人に

## 指導の重点

### 『愛すること』

他者や全ての生命、自然界、又は世界の出来事や状況に対して、あたたかな関心をむけ、慈しみ、信頼し、善処する。

### 『感謝すること』

私たちが生きていくためには、自然界の生命や鉱物及び世界中の様々な人々の労力等が必要であることを思い、それらに感謝と畏敬の念をもつ。

### 『務めを果たすこと』

社会を構成する一員として、その時に必要な役割を責任を持って成し遂げる。





# 身体、心、知性をバランスよく育み 真に自由な人間へ

シュタイナー教育では、子どもの心身の発達を7年間のまとまりとして捉え、幼小中高で一貫して、それぞれの時期にふさわしい働きかけをします。植物の種をまいてもいきなり花が咲かないのは人間も同じ。まずはしっかり根を育て芽を伸ばし、と土台づくりの順番を大切にしています。

各年齢ごとに子どもの持つムードやテーマがあり、それに応えるきめ細かなカリキュラムが組まれています。子どもを周りの世界に対して開き、子ども自身の中にある学ぼうとする意欲をひき出しながら、人間の「意志・感情・思考」をバランスよく育んでいきます。



周囲への信頼と模倣

内面に学ぶ準備が整う

1年

外の世界に目覚める

2年

他者との境界を感じる

3年

個性が目覚める

4年

調和のとれた黄金期

5年

心身の変化を迎え法則性に目覚める

6年

思春期が始まり自分に直面する

7年

今を存分に生きる

8年

世界への知的関心

9年

私たちの原点とは

10年

自分はどういう人間か

11年

繋がり合う世界

12年

幼



## 身体を作る 0歳～7歳

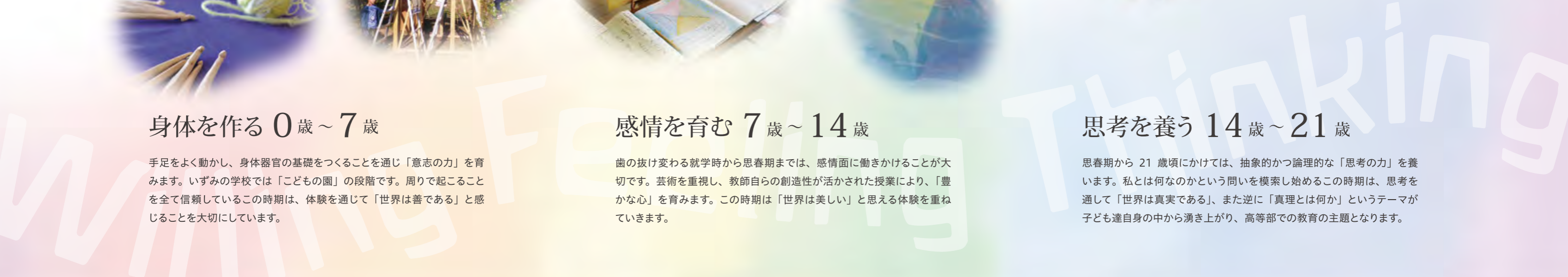
手足をよく動かし、身体器官の基礎をつくることを通じ「意志の力」を育みます。いずみの学校では「こどもの園」の段階です。周りで起こることを全て信頼しているこの時期は、体験を通じて「世界は善である」と感じることを大切にしています。

## 感情を育む 7歳～14歳

歯の抜け変わる就学時から思春期までは、感情面に働きかけることが大切です。芸術を重視し、教師自らの創造性が活かされた授業により、「豊かな心」を育みます。この時期は「世界は美しい」と感じる体験を重ねていきます。

## 思考を養う 14歳～21歳

思春期から21歳頃にかけては、抽象的かつ論理的な「思考の力」を養います。私とは何なのかという問いを模索し始めるこの時期は、思考を通して「世界は真実である」、また逆に「真理とは何か」というテーマが子ども達自身の中から湧き上がり、高等部での教育の主題となります。





# 教育のパラダイムシフト

トップダウンの知識偏重から ボトムアップの「自由への教育」へ

学習と言う時、人間を、頭部（思考）・胸部（心）・手足（意志）に分けてみると、現代では頭部で物事を学びとることが中心です。物事の意味を理解し覚え、知識を蓄積します。ある設問には一つの正解がありその解答を覚えていく方法です。しかしこれでは思考力が広がりを持つ余地がなく、驚き感動する心も働きません。人間は、心が動くときに初めて自主的に「なぜ?」「どうしたら?」と考え、そのとき真の思考力が育っていくと私たちは考えます。シュタイナー教育では、頭から知識を入れていくトップダウンの方法ではなく、手足を使い体験し、心を動かし、考えていく、ボトムアップ式のアプローチを

行います。身体、意志を使って物事と結びつき、心で感じ取り、思考を主体的に働かせる。シュタイナー学校では日々この積み重ねが行われています。まさに教育のパラダイムシフトといえるでしょう。この積み重ねで育つのは「共感の力」、世界中の人と共に生きていく土台の力です。一方、「思考の力」は自他を分け、物事を判断分析する力です。私たちは共感の土台の上に、思考の力を育むよう努めます。この相反する力を手にした時初めて、人は世界、他者、自分を理解しながら、同時に結びついていくことができるのです。これが私たちの目指す「自由への教育」です。

## 芸術としての教育

圧倒的にユニークな教育を支える **7** つのポイント



### 芸術としての教育 アクティブラーニング

教師は、ある決まった事柄を一方的に教えるという指導法は行いません。五感をフルにつかう芸術的要素にあふれたアプローチで心身に働きかけ、授業そのものが生き生きと輝く、芸術としての教育が展開されます。心が動き、問いが生まれ、知りたい、学びたいという開かれた心で出会う主体的で深い学びは、アクティブラーニングそのものです。発達段階に応じ、演劇やグループ・ワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを重ね、豊かな表現力も育ちます。



### リズムを重視

#### 一日の流れから一年の祝祭まで

静と動、集中と開放、楽しさと真剣さ。授業の中全てに意識されているのは呼吸と同じようなリズムです。ひとつひとつの授業の中で、一日の流れや一週間の中で、また一年間では毎年必ず巡って来る四季の祝祭があるように、一定のリズムが繰り返されることにより、子どもが安定し、健やかに学びへ向かえるよう生命力を整えます。



### 点数や試験より「学ぶ喜び」

誰かと比較し良い評価を得るためではなく、学ぶ喜びを感じられるよう環境を整えます。高学年では学習進度や到達度を生徒自らで確認できる小試験を行います。学年末には、担任と専科の教師が、一人一人の子どもの成長の様子を文章で記述した「学習の記録」を渡します。



### 8年間同じ担任 高等部からは専門性重視

7歳から14歳頃の子どもは、自分を取り巻く大人の権威を信頼し、その関係を通して学ぶことで世界を理解しようとしています。原則としてクラス担任は8年生まで持ち上がり、子どもの前に愛ある権威として立ち、深いつながりを築き包括的に関わります。9年生からは人生の伴走者として、より専門性を持った各教科ごとの教師が子どもと向き合っていきます。



### メインレッスン

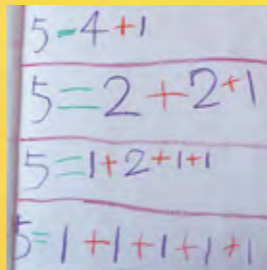
#### ひとつのテーマを3-4週間集中学習

毎朝、一番集中できる時間帯に2時間、3〜4週間かけて同じひとつの教科、単元などを集中的に学びます。「メインレッスン」とよばれるこの時間には詩を唱え、歌を歌い、体を動かし、絵を描くなど、手足を使い感情を伴う深い学びを行います。これはその時のテーマにあわせた教科横断型の学びです。学んだことは大判のノートに美しくまとめ、世界で一冊のオリジナルな教科書となります。学び終わるといったん意識から遠ざけ、ゆっくりと消化させる時間とします。8年生までは担任、9年生以上は専門的な教師があたります。



### 専科 シュタイナー学校ならではの授業も

メインレッスンの後は、英語や体育、手芸、音楽、オイリュトミーなど「専科」の授業が行われます。それぞれの科目は他の学びと有機的につながっています。言葉や音楽を身体で表現する芸術「オイリュトミー」や、様々な模様、文様のダイナミクスを描きその動きを感じ取る科目「フォルメン」など、シュタイナー学校独自の教科もあります。演劇、弦楽器、水彩、美術、工芸、暮らしの仕事、農業、青空教室、アウトドアなどにも取り組みます。すべての科目に芸術的要素が含まれ、他の学びと有機的につながって展開されます。



### 生きる礎 つながり大切に

シュタイナー教育の学びは、世界は一つであるという根源的なところから始まります。全体から部分へ、一つの世界から様々なものが生まれ発展するという考え方が、全ての学びに浸透しています。世界に現れていることは全て自分とつながっている。卒業時には、自分自身とつながり・仲間とつながり・世界とつながり・新たな世界を生み出せる生きる基盤が育まれます。

幼

幼初期は健康な体を作り、意志の力、想像の力を育てることを重視します。この力は大人になった時、自分で考え、感じ、行動していく力へと変わっていきます。園ではあたたかみのある家庭的な雰囲気の中、暮らしのリズムをつくり、健やかに成長するよう環境を整えます。

1

あらゆる学びの種まきの時期です。8年間を共にする担任と出会います。世界は一つであるという、シンプルで根源的なテーマを中心にすえ、物事をおもとから学ぶことを重視します。

2

子ども達はまだ夢の世界に住んでいますが、段々と外の世界に目覚め始める時期です。いたずら心が芽生えたり人間の素晴らしさ、愚かさにも気づき始めるこの時期には、聖人伝や動物寓話など道徳的な判断の元になるようなお話を語ります。

3

自分と世界が一つであったところから、他者との境界を感じ始めます。まるで世界から切り離されたような感覚を持つようになる時期です。地上にしっかりと立ち、生きていけるという安心感を与えるための学びとして、家づくり、米づくり、調理実習、羊の毛刈りなどの「暮らしの仕事」に取り組みます。

4

世界と自分との間に距離ができる内的な変化が終ろうとし、より個が目覚めてくるこの時期は、内的に安定できる客観性を育む学びを始めます。身近なところから外に目を向けることができるようになるため、郷土学や動物学を学びます。また、感情がより豊かになるこの時期から、胸（感情）に働きかける弦楽器が始まります。

5

子ども時代の黄金期と言われる、心も身体も調和のとれたバランスのよい時期です。時間的にも空間的にも身の回りから外へ、より大きな広がりへと目を向けるため、本格的な歴史（世界史）、地理、植物学を学びます。人間関係においても、他者をありのままに受け入れる態度を示すようになります。

6

大地にしっかりと立つ力を身につけるようになりますが、徐々に成長する自分の四肢を持て余し始めます。足取りは重くなり、動きにリズムがなくなり、精神的にもいわゆる反抗期に入ります。原因と結果の因果関係という観点から物事を捉える論理的、客観的思考が目覚め始め、物理学、鉱物学、天文学などの授業が始まります。

7

思春期が始まり感情はより豊かで時に激しくなる面も現れてきます。権威に疑いをもち始めると同時に内省的になり、個人としての自分に直面していきます。思考の力を更に育みつつ内側への深まりと外側への広がりを発展させて行きます。内側への学びとして栄養学を、外側への学びとして、ルネサンスや大航海時代を、より客観的な視点で化学も学びます。

8

自分自身の力で立ちあがりたいと思うこの年齢は、身体の変化の時期でもあり、権威であるクラス担任と過ごす終盤期にあたります。これまで学んできたことを総括し、人間とそれを取り巻く世界を有機的なつながりを持った一つの全体として捉えます。担任から巣立つ子ども達が、自分自身で今を存分に生きることができるよう、学びの集大成としての大掛かりな演劇や、国内外への修学旅行、個人のプロジェクトに取り組みます。  
●8年修了演劇 ●修学旅行

9

思考の力がより発達し、世界を知性によって把握・理解しようとする態度が育ってきます。より思考に働きかける各々の教科は担任ばかりでなく、専門性を持った教師や講師によって担われます。感情的に極端になる傾向のあるこの時期のテーマは「対極」で、黒と白のような対照的な色合いや、対照的な人物、そしてそれらを結びつけるものとしての理想を扱います。また、世界に目を向け、自分を取り巻く社会環境理解のために近代史を扱います。  
●農業実習 ●ソロビパークキャンプ ●インタビュー実習

10

生徒達は個人へとますます成長していきます。他者と自分との違いに敏感になり、行動の幅も広がります。責任感や、より明晰な思考力を育てることが大切です。「自分たちのルーツと原点」がテーマで、過去へのルーツを探るところから文学では古典を、社会では古代を学びます。もう一つのポイントは構造の理解で、生物では内臓、身体の機能、物理では力学、テクノロジーを学びます。地図を理解するために、数学を学んだあと、実際に土地を歩いて計測・記録する測量実習も行います。  
●測量実習 ●社会実習 ●100キロウォーク ●冬季雪洞キャンプ

11

自己意識が発達し、自分がどうい人間か、何をしたら良いかということに悩み始め、孤独や悪の問題に突き当たることもあります。「アイデンティティ」をテーマに、人の生き方、観念の対象化、目の前の現実のみに縛られない視点の可能性を扱い、多角的な視点を育て、自分の考えを客観的に見つめられるよう導きます。歴史では主に中世を、国語では人生観や世界観を扱い、数学では非ユークリッド幾何学等を扱います。  
●福祉実習 ●職業実習 ●交換留学 ●大雪山縦走

12

生徒は、自分が社会に、そして世界にどう働きかけられるのかを考え始めます。選挙権を持つ年齢に達し、卒業後の道を模索する時期で、「私はどのように世界へ働きかけられるか」がテーマです。これまでの学びを総括・俯瞰し、各教科を総合的に捉えられるようにして、具体的な問題と結びつけ、人間とはどのような存在なのか、自由とは何かを内面的に問題提起できるようにします。卒業プロジェクトでは自分で選んだテーマを研究、深く掘り下げて発表します。また、自分達が中心となって企画した演劇を発表します。  
●国外への修学旅行 ●卒業プロジェクト ●卒業演劇



# 北海道 大自然の中で積み上げる 確かな自信 生きる力

ダイナミックな自然と  
その自然と共存してきた人間の叡智が息づく北海道

いずみの学校では、あらゆるものとのつながりと調和を大切に「生きた学び」を重視します。洞爺湖有珠山ジオパークに指定された豊浦町は、天然記念物のオジロワシも飛来する自然豊かな町。山、川、湖、海、そこに生息する生き物との出会いや、人々の暮らしと生業、生活の場と、環境が丸ごと生きた教材です。周りの世界との深いつながりを持つことで、知性と豊かな感性と行動力を兼ね備えた人に育っていきます。



## 北海道ならではの アウトドアアクティビティ

低学年の校庭でのクロスカントリースキーから、世界が認めるニセコでスキーやスノーボード合宿も。  
カヤック川下り、大雪山の縦走、雪洞を掘ってのキャンプなど。  
確かな経験を重ね、自信に溢れたスケールの大きな人に育っていきます。



## 自らの個性を開き 社会へ飛び立つ卒業生

北海道の大自然に囲まれた小さな町で、12年生まで個性を存分に育んだ生徒たちは、それぞれの歩みを進めます。大学、短期大学、専門学校、就職、農業研修、俳優、受験に備えての勉強、海外への留学遊学など、幅広い方面に渡ります。性急に進路を決めず、あえて落ち着いて考えたり、周囲が予想できなかった方向へ進む生徒もいます。自分を枠にはめ込まず、世界に向かって心が開かれていることが感じられます。

